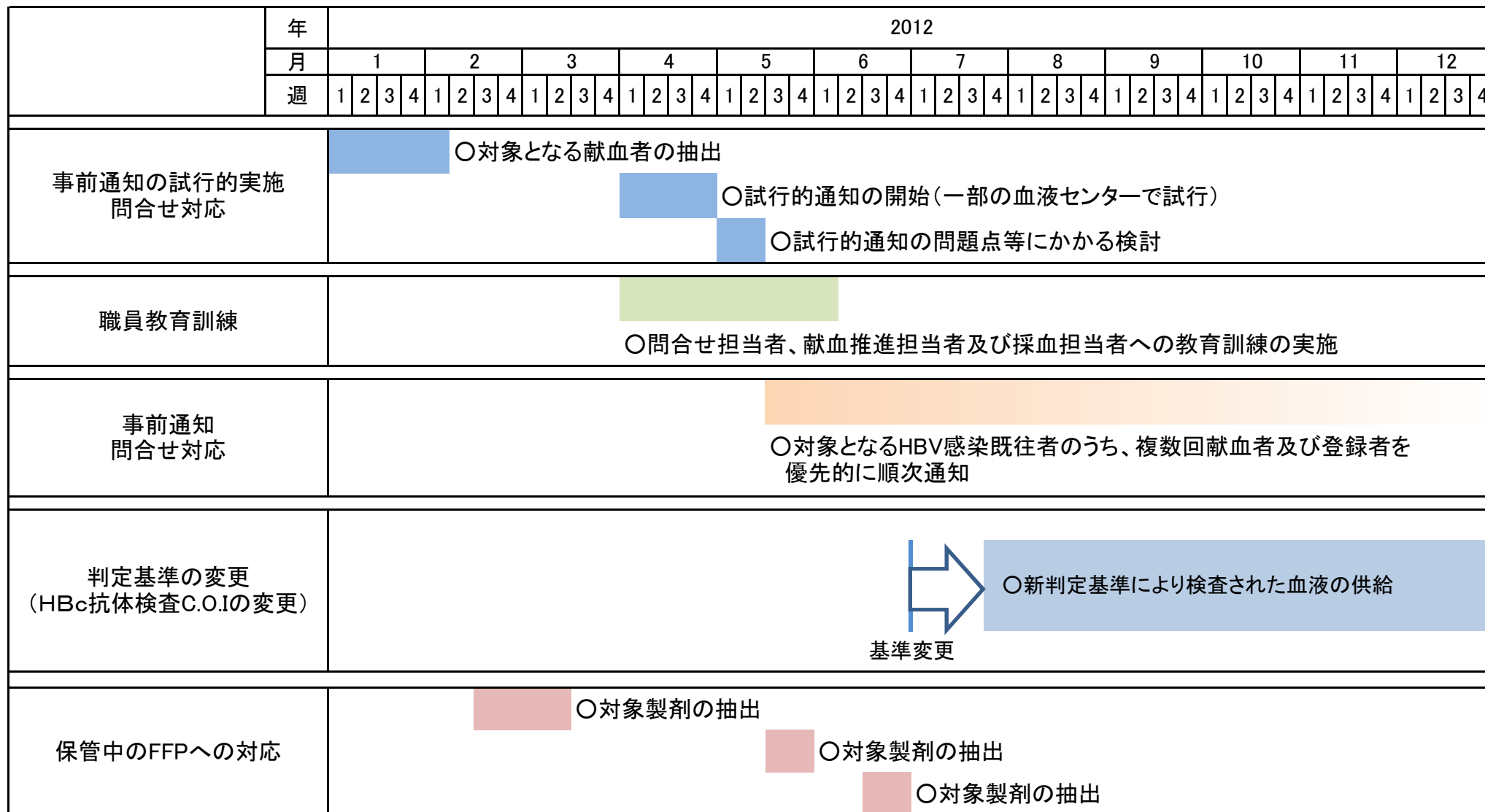


HBV感染既往献血者への対応スケジュール予定

資料4



「お知らせとお願い」の連絡を受けた皆様へ

HBc 抗体陽性、HBs 抗原陰性とは？

1. 献血時に血液検査（ウイルス検査）を行うのはなぜ？

→献血した血液にウイルスが入っていないかを調べ、輸血用血液にウイルスが混入するのを防ぐためです。

ウイルスに感染している人の血液を輸血すると患者さんに感染が起こることがあります。そのため、献血されたすべての血液に対し、さまざまなウイルス検査を行い、輸血用血液へのウイルスの混入を防いでいます。

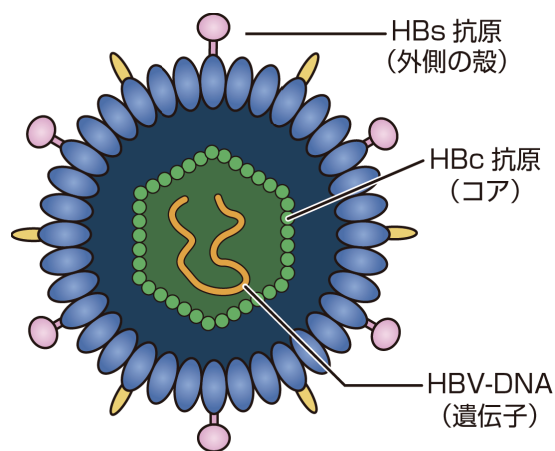


2. B型肝炎ウイルスに感染しているかどうかは何を調べているの？

→B型肝炎ウイルスがつくる蛋白（HBs抗原）やウイルス感染に対する免疫反応によってつくられる抗体（HBc抗体）を調べています。

B型肝炎ウイルスは球形のウイルスで、外側を被う殻（HBs抗原と呼ばれる蛋白が埋め込まれている）と、中心にあるコア（HBc抗原と呼ばれる蛋白）、とDNA（遺伝子）から構成されています（右図）。

下表に B型肝炎ウイルス関連検査の種類とその検査が陽性の場合の状態を記載しています。



B型肝炎ウイルス

※B型肝炎ウイルス関連検査

HBs 抗原	ウイルスの外側を被う蛋白 陽性：現在感染している。
HBc 抗体	HBc 抗原に対する抗体 陽性：現在感染しているか、過去に感染したことがある。
HBs 抗体	HBs 抗原に対する抗体（HBV の感染を防御する働き） 陽性：過去に感染したことがある。
HBV-DNA	B型肝炎ウイルスの遺伝子 陽性：現在感染している（検査の精度が高い）

3.HBc 抗体陽性、HBs 抗原陰性の検査結果は何を意味しているの？

→HBc 抗体が陽性、HBs 抗原が陰性ということは、「過去にB型肝炎ウイルスに感染したことがあるが、現在は治っている状態」と考えられます。

B型肝炎ウイルス感染者の70～80%は肝炎症状が起こらず自然に治ってしまいます。したがって、これまで献血いただいた血液は輸血に使用されてまいりました。しかし近年、非常に低い頻度ではありますが、治った後でも血液中に微量のB型肝炎ウイルスが見つかることが明らかとなってまいりました。

4.すぐにしないといけないことは？

→特にありません。 普段の生活に問題はありません。

5.医療機関に受診する必要は？

→今回の検査結果をもって 医療機関（病院）を受診する必要はありません。

ただし、今後 入院治療するような大きな病気（癌や移植など）に罹った場合は、念のため担当医師に今回の内容をお伝えください。

また、今回のお知らせに限らず、すべての方々が年に1回程度、健診などで肝機能検査を受けられることをお勧めします。

6.今後の献血は？

→非常に低い頻度ではありますが、治った後でも血液中に微量のB型肝炎ウイルスが見つかることが明らかとなってまいりました。（上記3. を参照ください。）

そこで患者さんへの万が一の感染を防ぐために、

これからの献血は控えていただきたくお願い申し上げます。

より安全な輸血のため、どうかご理解をお願いいたします。

.....
*血液センターでの検査は、安全な輸血のため少しでも疑わしいものも含めて「陽性」と判定しています。そのため、本来は陰性であるにもかかわらず、あたかも陽性と反応してしまうこともあります。その場合、医療機関で同様の検査を受けた結果、陰性となることもあります。
.....